

マカオの世界遺産を紹介したことがあるが、私のお膝元でもあるここフィリピンにも世界遺産はしっかり存在する。そのひとつが、マカティから車で30分も走ればたどりつくマニラのイントラムロス地区にある。

それが写真のサン・アグスチン教会である。

ただし、世界遺産としては、この教会単独の登録ではなく、同時代に建設されたフィリピン全土に存在する4つの教会をひとセットにし「フィリピンのバロック様式教会群」として登録されている。

その中でも、このサン・アグスチン教会は400年前に建設されたフィリピンでもっとも古い教会であり、フィリピンの世界遺産の代表である。

さて、この教会があるイントラムロス地区は、フィリピン/マニラ観光のメインとなっている場所でもある。

全土に広がる、海・山の大自然は別として、観光資源に乏しいフィリピンではあるが、ここだけは外してはいけない。

というより、フィリピンに来たら、絶対に訪れてほしい場所である。それも、若干の予備知識と時間をもって。

イントラムロスとはスペイン語で「壁の内側」の意味であり、ぐるりと高い壁で囲われた場所である。

1500年代末、スペイン人が、この場所を植民地の首都にするために建設した町であり、今でも、そのスペインの面影を強く残している。

ここを歩くとき、ここがフィリピンであることを本当に忘れてしまうほどである。

この洒落た街並みも画面に納めようとしたら、主役は片隅となってしまった。

「ごめんね、世界遺産」

